

「福井市総合計画審議会」 第3回 第4部会

■開催日時：平成22年7月28日（水）18：00～20：00

■開催場所：国政交流会館 2階 第1会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

それでは、本日は皆さま方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、厚く御礼を申し上げます。福井市総合計画審議会の専門部会第4部会の3回目の会議をただいまより開催させていただきます。

2. 市民憲章唱和

司 会

まずはじめに、市民憲章唱和をお願いしたいと存じますので、恐れ入ります、ご起立をお願いいたします。

市民憲章は、会議次第の裏面にございます。

私が前文を朗読いたしますので、それに引き続きご唱和をお願いいたします。5つの項目のそれぞれに設けてあります実践目標につきましても唱和したいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

————— 市民憲章唱和 —————

ありがとうございました。ご着席ください。

それでは、以後の審議につきましましては、部会長の桑原先生によりしくをお願いいたします。

3. 議題

【（1）前回審議内容の説明】

桑原部会長

それでは、審議を始めたいと思います。前回の審議内容について事務局の方から説明をお願いします

事務局（吉村室長）

座って説明をさせていただきます。第2回の専門部会のご意見と要約したものにつきましては、事前に配付をさせていただいております。これらを元に修正したA3判のペーパーを置いてございますので、そちらをご覧くださいと思います。

まず、政策の⑮「活力と魅力あふれる商工都市をつくる」というところですが、右側の施策のところでございます。「地域の商工業を振興する」というところです。まず、

前半の部分を少し膨らませておりまして、「農商工連携などを推進し、新商品の開発や販路の開拓などを支援する」という文言ですとか、「中小企業のニーズにあわせた活性化策や融資制度の充実など、きめ細かな支援を実施します」ということで少し説明を加えて分かりやすくしております。

それから、後段のところですけども、成長産業という意味がよく分からない、というご意見もございまして、「環境、エネルギー、健康などの成長分野産業の振興を集中的に行うとともに、これからの福井の産業を支えるすそ野の広いものづくり産業の創出を図ります。さらに、今後の商工業を担う人材の育成に努め、グローバル化に対応した商工都市をつくります。」ということで、全体としてちょっとボリュームを増やした形にしております。

二つ目の「市民が働くことを応援する」というところですが、前段のところは、子育て環境という言葉が入ってございましたけども、介護とか色々な分野もあるだろ、というご意見もございました。安心して働ける環境というような文言に訂正をするるとともに、後段のところで、「より多くの人が働きたいと思える魅力ある職場環境を実現するために、就労環境の改善を支援していきます。」というような、職場環境の改善というようなことを付け加えております。

それとちょっと不足でございますけれども。この議論の中で介護といったところが、報酬が安くて人材が集まらないようなことについて、「国にしっかり要望すべきではないか」というようなご意見がございました。こういう全国的な制度の改正については、市長会とか議会という組織がありまして、こういったものを通じて国の方へ要望するというのがだいたい通例になっております。そういう意味では、全国市長会、市長全体の一番上の組織でございますが、この6月に国に要望した事項の一つでございます。介護保険制度というのは、3年ごとに財政計画をつくって制度を見直す、という制度になっておりまして、現在は21、22、23までの制度になっている。24年度からの新しい制度をこれからまた構築するという段階に入っておりますので、その項目の中の一つとして人材の確保、あるいはサービスの質の維持とか、そういったことのために、適切な介護報酬を設定すること。こういうようなことで、この6月に要望をしているところでございます。

さらに補足しますと、今、国会の方で審議中でございますけれども、国と地方の協議の場、これを法制化をする法律が出ておりまして、今後は市長会、議会、或いは知事会とか県議会の議長会とか、そういったところの代表の皆様と政府の方々、そういった形の協議の場が正式にできることになりますので、そういった場などで、そういった地域や長の要望、そういったものは、お願いするような場も出てくるということでございますので、そういった点でご理解いただきたいと思います。

それから、次に政策の⑯でございます。「福井の魅力を発信する観光都市をつくる」という部分でございます。これも施策のところですけども、全体として幼少時からの福井の魅力を知ることが必要ではないか。それから、アドバイザーを派遣するのが重要ではなくて、それによって地域の人が育つことが重要である。そういったご意見をいただきましたので、「子どものころから福井の魅力に親しむ」という文言ですとか、あるいは「地域における人づくり」と、こういう文言を追加させていただいております。

それから最後に、施策⑰の快適で豊かな農林水産業、というところでございますが、快適であるというのに違和感がある、ということで、「魅力ある」とかそういった形に替えたほうがいいのか、ということで、政策の頭のところは、「魅力ある豊かな農林水産都市をつくる」という形に替えております。

それから、現状・課題のところでございますが、1点目のところは、現状と課題がいつぺんに書いてあるのではないかと、というようなことで、ちょっと文章を分けている部分と、それから、下の方で赤くなっているのは、農林水産業も一つの日本文化ではないか、ということで、そういったものを伝承していくことも必要である、というご意見をいただきましたので、そういったことも課題として入れております。

それから、右側の施策のところですけども、農業、林業、水産業とそれぞれの振興ということが載っておりますけれども、それぞれ課題としては、基盤の整備ですとか、あるいは担い手、経営者の育成、そういった共通の課題があるということで、一つにまとめてはどうか、ということで、「農林水産業を振興する」という形で一つにまとめました。この中で、「必要な基盤の整備を行い、これからの農林水産業を担う人材の育成を支援します。」というふうな文言に変えて。

それから、農林漁業経営の維持といいますか、「農林水産物の生産拡大、商品開発、生産・加工・販売等の経営の多角化・高度化、こういった取り組みを支援します。」ということ全体として付け加えております。

それから「農山漁村の生活環境を整備する」というところですけども、ここでは公共用水域の水質保全」という言葉の意味がよく分からないというようなご意見もございましたので、具体的に「農業集落排水施設の整備により用排水路の水質保全に努め」というような形の文言に替えております。

それから、「安全・安心な地元農林水産物の利活用を推進する」これも、ちょっと食育ですとか、あるいは生鮮食料品を安定供給する一番の部分でございますが、ちょっと細かいのではないかと、ということで、こういったことをあわせて、「安全・安心な地元農林水産物を活用し、地産地消と日本型食生活を取り入れた食育を進めます。」ということと、「卸市場の円滑な運営に取り組み、地元農林水産物を含めた生鮮食料品の安定供給に努めます。」というような形を2つ合わせたような形で1つの文章でございます。

以上ちょっと簡単でございますけれども、前回の審議で色々ご意見をいただいた部分のこちらの方の案として修正した部分の説明をさせていただきました。

それから、本日の第3回目の専門部会ということで、これまでに一通り政策、施策のところを見ていただいておりますけれども、A4のペーパーで基本目標で、「みんなが生き生きと働く都市」というペーパーをお配りしておりますけれども、この基本目標につきましても、これまでのご議論を踏まえて、一部修正をしてお配りをしております。

これも含めまして、本日はご議論をいただいて、いったん、この基本目標以下のところについては、終結をさせていただきまして、審議会の会長副会長、それから正副部会長の皆様にお集まりいただいた調整会議で、全体調整をした後、その後またさらに1カ月後ぐらいになると思いますけれども、その後は都市像ですとか、基本理念とか、そういったところもまたご審議をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

桑原部会長

この修正案に関しまして、何か前回のご意見の漏れがあるとか、文章の細かい点でもよろしいですけども、何か修正すべきところとかありましたら、お願いしたいんですが。

前回に比べると、意見というのが一応修正をされているのかなと思われるんですが。

野坂副部会長

よろしいですか。質問なんですが、これからの日程をもうちょっと詳しく教えていただ

きたいんですけれども、今日は、これを一応ある程度確定してしまっ、ということで…
…。

事務局（吉村室長）

そうですね。

野坂副部会長

部会のまた案内やらなんやら日程の、今月の分と来月の分と2回ほど来てるんですけれども、どんなスケジュールを考えていらっしゃるのかっていうのをちょっと。

事務局（吉村室長）

調整会議が、いったんこの基本目標、それから政策、その施策はこれまでご議論いただいて、今日は3回目で、一応今日でこの部会としての修正案を決定する。その後、正副会長正副部会長にお集まりいただいた調整会議、これを8月の9から13の間に日程調整をさせていただきまして、ここで1回調整会議を行う予定でございます。その後、第4回の部会です。将来都市像とか、そういったことについて部会ごとにご審議をいただく。これを8月の23から27の間に。

野坂副部会長

将来都市像。

事務局（吉村室長）

将来都市像。一番最初に草案をお渡ししたときに、頭のところに、目指すべき将来都市像、将来都市像を実現するための基本的な考え方、そういったところがございまして、色々各部会で、色々なところを修正した上で、その上にある目標的なものですね。そういったものをまた見ていただくようなことです。

それが8月23から27の週でやりまして、それから、9月の終わり頃、第5回の部会、ちょっと間が開きますけども、第5回の部会でさらにこの将来都市像のところをつめていただきまして、その後は、また調整会議。これが10月12から15の、この辺りで第2回目の調整会議をします。その後10月の25から29あたりで第6回目の部会。ここで最終的なとりまとめを行いまして、11月の中旬ごろ、全体会議、全員の方にお集まりいただく審議会を開催しまして、審議会での一応の案をまとめていただいて、その後また、パブリックコメントにかけて、パブリックコメントとか、福井市の議会に対してもだいたいこういうので来ています、という素案を示しまして、パブリックコメントとか議会のご意見をいただいた上で、さらに1月に全体会議を開くというふうな、だいたいおおむねそういうふうな流れでございます。

桑原部会長

ご意見があれば。

野坂副部会長

⑮⑯⑰の順番にいきますか。⑰⑯と。

桑原部会長

逐次、何かございましたら。ありますか。

野坂副部会長

大変、優秀な福井市の行政の方がまとめられたなと感心はさせていただいているんです

が、⑮ですが、誘致という言葉を外されたんですが、誘致というのを入れた方がいいかなという印象はありました。だから、もうちょっと見える形のすそ野を広げるとか、創出する、供用、創出とか、こういうことでやっていくということがもうちょっと見える。こういうことは出ていると思いますが、もうちょっとこうインパクトがあるといいかなという印象をちょっと持ちました。

それから、2番の、もう少し具体的なことをもう少し入れた方がいいのかな、安心して働けるということに関して。ちょっとほかの項目の部会と重ってしまう部分があるのかもしれないんで、雇用関係、例えば子育てなんかも。

桑原部会長

消さない方が良かったということですか。

野坂副部会長

そういう感じが、若干……、だからむしろ平均的なレベルになって、ここをもう少し福井市として特徴を出して、雇用環境を他所よりも良くすることによってやるという、施策なりを入れるというか。うまく説明できなくて申し訳ないんだけど、そういったことが出た方がいいのかなと。そんな予算はないのかもしれませんが、何とも言えませんが、少なくとも待機児童はないとか、こら先ほどは……。

事務局（吉村室長）

そこらへんは違うところで、子育てのところの方で、その結局、働いて安心して、働く方から見ると、安心して働くために子どもを預けるようなことができるような形なり。

野坂副部会長

例えば、安心して預けられるような環境を利用して、とかいうようなことで書けば全然問題ないかもしれない。利用してもっと誘致をすとか、産業を活性化させるんだとか何とか。

事務局（吉村室長）

確かに、子育て環境としてはいい方だと思うんで、そういったものを。

野坂副部会長

前面に打ち出して誘致をすとか、企業を育成するんだとか。地元企業を支援するんだとか。そういう言葉が入った方が分かりやすいのかな、という感じは受けました。

それから、文章が切ってしまったんで、「市民が働くことを応援する」の中の、「安心して働ける環境を整えるなど生活が安定するようにします。」というにはちょっと文章がおかしいというのは、読んでいてちょっと感じますけどね。「生活が安定します。」ということが結論になるんでしょうかね、これも。ちょっと私も国語がそんなに強くないので、ちょっと違和感を感じたんです。

桑原部会長

ちょっと切らせていただいて、⑮のところでその3点で、皆さまのご意見が、特に吉田委員さんは前回の産業誘致みたいな点に関しては、一緒にしていいのではないかと、というご意見でしたけれども、という意味もあって、誘致が消されたのかな、と思うんですが。

吉田委員

しなくてもいいというのではなくて、100%のところと、まだこっちのパークじゃない、ポートの方が残っている。逆にこちらの方がしなくてもいいような話だったら、それ

はおかしいやろうと。そういうんだったと思うんですけど。だから、今、副部会長がおっしゃったように、誘致を入れていいんじゃないかと思うんだけどね。

桑原部会長

「成長分野産業の誘致を集中的に行う」方が。

吉田委員

「振興を誘致は」ちょっとおかしくなってしまう。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

今、私どもの室内でこの文章を入れたときに、成長産業を国が集中的にという文言が入っていましたので、誘致と集中的というのは、ちょっとかみあわなかったから、誘致を消したわけでごさいますて、決して誘致をしないというのではなくて、ちょっと集中的を強調したがためにですね。

野坂副部会長

だから、ちょっと私もそう思ったんで、逆に最後の方の「ものづくり産業の創出と誘致を図ります。」と。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

すそ野の広い産業の誘致というのは、もう私の方も常々のことなんでその辺を。

野坂副部会長

これもおかしいかなと思ったんですけどね。そこまであまりこだわられません。

桑原部会長

これで一応決まるんですよ。なので、細かく決めておいた方がいいですかね。

野坂副部会長

やはり文章一つを一つひとつ加えると、やはりおかしくなる場合もあるんで。

吉田委員

「成長分野産業の振興」これはこれでいいのでは。また違うってくと別になってしまふ。新たな拡大策だから、新しい今の福祉産業とか、いろんな形でものものとりまえ方かなというふうな。

野坂副部会長

逆にごめんなさい、話の途中になってしまうけど。一番最初の分野の、たぶん「企業連携や産学連携、農商工連携などを推進し、新商品の開発や販路の改革などの支援、ならびに積極的な誘致活動を行うとともに」ここに出るとおかしくはないんですかね。先進型とか、成長型企業の誘致とか、また都市型企業の誘致とか、ということを入れると。ごめんなさいね、吉田さん。そこを入れる方が締まる。

吉田委員

いえいえ、いいです。

野坂副部会長

施策の一つですからね。

野坂副部会長

前段はどちらかというと商業の振興的な意味合いでの商品開発、そういった部分ですね。どちらかというと商業の振興的なものが前段には強いかなと。

野坂副部長

修正したやつをここに来てパッと見て、修正するのも難しいとは思いますがね。

吉田委員

でも、やはりこれは、誘致というのは雇用創出にもつながってくるのであるから。だからこの今、おっしゃっているように施策の方向性の中で、企業誘致と中小企業支援と書いてあるんだから、何かそういった意味での誘致という言葉は、何らかの形で表現したほうが、いいんじゃないかなと。雇用創出を含めての。

だから、新たな活動の成長産業の中で、雇用対策にもつながっていくという部分も解らわけではないのであるが、前段の施策の方向性の中にある。だから、この間も言ったようにパークの方はほぼ100%あれで、ポートの方はまだ残る。あるいは企業倒産によって、大きな工場がどんどん空き状態、虫食い状態になっている。そこへ新たな企業の、というような動きもあるんだから、やはりそこらへんをどういうふうにとらまえて、新しい六次総合計画の中でそれを埋めていくか、という方向性を出してあげた方がいいんじゃないかなという。パパパッとコンピューターではじかれんのか、頭の中で。

野坂副部長

課題とか、政策の方向性としては、誘致は書いてあるので。

事務局（吉村室長）

今言われたようなことをちょっと踏まえて、文言的にはこちらの方で考えさせていただきます。

桑原部長

じゃあ、二つ目でおっしゃっておられたのは、安心して働けるという市民が働くことを応援するという2行目の中で、安心して働ける、というのはちょっと細かい方がいいんじゃないか、という気がするんですが、どうですか。私の個人的な意見ですと、今後の5年先を見越した時に、子育てとかよりは介護の問題で、働くというか雇用環境でちょっと融通が利かないということの方が増えてくるのかなと思うんで。

野坂副部長

子育てと介護と両方入れないとまずいと。

桑原部長

どうかなと思ったので。子育てや介護もしやすい。

野坂副部長

だから、ここはそういうことを全面に出して、働く人を応援する、並びに他からも移住してでも働きたいという気持ちになるような都市にするんだ、というニュアンスが入っているといいかなという感じがします。

吉田委員

これは今さらになっておかしいんやけど、これ、タイトルはこれでいいのか。「市民が働くことを応援する」「市民が働くことを応援する」これはこれでいいの。何にも気がつかなかったのだが、時間をかけて見ると、市民やろう、何かボランティア的な意味、これ

は。違うやろ、これは。

野坂副部長

市民が働く環境を整えるでは、ここの職業ではなくてむしろ違うところで点がなくなる可能性がるというので、ここにしたんじゃないの。

吉田委員

主は市民になっているでしょう。これ行政はというのか、施策の中で、こう出していくんやで、語呂あわせおかしくない。作った本人。

事務局（吉村室長）

市民だからおかしくなる、働くことを応援するだけ。

野坂副部長

何のことか分からないじゃない。

吉田委員

市民のとか、うん、「が」やで。

野坂副部長

市民の働く環境を。

吉田委員

市民の働く、これもおかしいな。

野坂副部長

環境を整備するのであったら違う項目になるね。

事務局（吉村室長）

ちょっと、これ難しいところで、直接職場環境とか労働環境ってなかなか市が直接携わるといえるか、さっき言われた、例えば、保育園とかそういうところの充実とか、介護保険で介護施設なんかをつくることを支援する、そういったことは市でできるんですけども。企業そのものの育児とか介護をしっかり充実して、しっかりそういう職場環境を整えていただくのは、どちらかというと企業にやっていただくことで。うちは啓発することしかできない部分があるんで。ちょっと表現がなかなか、そういう意味では応援するという、そういう部分もあって、ちょっと難しいところはあるかなと思うんです。

野坂副部長

でも、吉田委員さんがおっしゃられるように、市民が働くことを応援するっていうのは何かもう一つ……。応援は支援。「働く環境を支援する」ではあかんのですか。難しいんですか。

笈田委員

働きやすさを応援するんで。

吉田委員

いずれにしても、「市民が」だから、

笈田委員

「市民の」働きやすさ。

野坂副部長

市民の働きやすさ、働く環境とはまた違うんやね。

吉田委員

市民の働く環境とは違うんやね。

野坂副部長

環境は違うんですか。

桑原部長

就労環境と出てくるので。

吉田委員

市民が働きやすい環境を応援する。

野坂副部長

そういう場合の方がいいですよね。環境を支援する、応援する。

吉田委員

市民が働きやすい環境を、環境を応援するというのもおかしいな。

野坂副部長

環境を支援、環境を支援じゃないですかね。環境整備を支援する。最後は支援になって、「就労環境の改善を支援していきます。」。

事務局（吉村室長）

直接的な支援だけでなく、色々啓発とかそういったものもしながら、企業で整えていただく。そういったことも含めて全体として応援するというような意味合いが。

野坂副部長

それで応援が入った。

事務局（吉村室長）

市民を応援する。その間に働くというものが入っているようなイメージです。

吉田委員

粗相やったな。あんたらの能力やったら粗相やった、この表現は。

野坂副部長

働く市民を積極的に支援、応援する、っていうのはどうなんですか。

吉田委員

だから、そういう意味やと思って。これでは、そう受け取られんの。

野坂副部長

だから、応援という言葉にこだわるんでしたら「働く市民を支援・応援する」。

吉田委員

もっと分かりやすく言ったら、「市は働くことを応援します」というのが一番分かるのやけど、それじゃあ、あまりにもあれでな。だから、どうしても市民というフレーズを使うんなら、市民の働くなんとかを応援するんや。

桑原部会長

何となく統合しますと、「働く市民を支援、応援する」という感じですか。

吉田委員

商工労働部次長殿。こういう表現をいっぱい取ってるやろうで。

野坂副部会長

「生活が安定するようにします」というのは、文章的にどうですかね。私、ちょっと若干違和感を感じたんですがね。最初の文章の一段目。「地元企業の情報提供」というところで。

桑原部会長

先にこの文章のタイトルの方を決めておきましょうか。

野坂副部会長

ある程度お任せした方がいいんじゃないですか、指摘だけして。

桑原部会長

でも、次は我々の審議の上に行ってしまいますので。

野坂副部会長

私は専門家に任せた方がいいんじゃないでしょうか。

吉田委員

なら、これ、「市民が働きやすい環境を応援する」というのはどうや。「市民が働きやすい環境を応援する」、「の」か「が」となると、「市民が働きやすい」やで、そうすると第三者が何かそうするんやなという感じがあるし。「の」やとまたちょっと言葉を替えなあかん。

榊原委員

「市民が働きやすい環境を応援する」、ですか。

桑原部会長

はい、環境はつくれない、ということなので、影ながら応援する。

野坂副部会長

環境を応援する。

榊原委員

「市民が働きやすい環境を応援する」ですか。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「環境を応援する」というのが何かおかしいような。「環境は整備する」というのなら普通ですけど、応援という言葉はどうしてもここで加えたいなら、目的を考えなあかん。

桑原部会長

働きやすい環境整備は、市の方ではできないとおっしゃるわけなので、環境はつくれないんですよ。

吉田委員

表現できないのか。

桑原部会長

でも、最初おっしゃられた「働く市民を応援する、支援する。」になにか全部包含されているんじゃないかと思うんですけども。

事務局（豊岡商工労働部次長）

働く市民だけじゃないでしょう。働いていない市民も平等にかかわるように支援する応援するっていう意味もあるでしょう。働いている人だけを応援するわけではない。

桑原部会長

そうすると、「市民が働くことを応援する」に戻るじゃない。

榊原委員

市民が働く環境じゃなくて。

野坂副部会長

ぼやかしてしまうと何を言っているのか分からないじゃないですか。市民が働くことを応援するって何をするの、という話になるようなタイトルであることだけは間違いないですね。具体的なイメージがない。

事務局（豊岡商工労働部次長）

そういったことをすべて包含してこの文章にしたんですか。

事務局（吉村室長）

「市民が働くこと」っていうのを一つに固めると、市民が働くこと、を応援するんで、と思ったんです。

桑原部会長

カギカッコをつける。

吉田委員

あっそうか。そうやって言われるとなるほどなとなる。このまま読んだら。

事務局（土田農林水産部林業水産次長）

実際に働こうとしている人に対しても応援するし、実際に働いてる人に対しても応援する、ということで意味を。

吉田委員

これはとらえ方の。いちいち説明せにゃあかん。このまま読んでしまうと市民が働くことを応援するって。市民が働くことをどうやって進める。

事務局（吉村室長）

市民が働くこと、で切って、市民が働くこと、を応援する。

野坂副部会長

だから、そのタイトルやと具体的なイメージが沸いてこないのは間違いないです、申し訳ないですけど。何を言っているのかなあと。あんまり時間とったら、3つあるんですよ。

桑原部会長

とりあえず今出た意見としては、「働く市民を支援、応援する」というものと「市民の働きやすさを応援する」というのと、「市民の働く環境を応援する」というのがありました。

この中から選んでいただくか、もしくは、その「市民が働くこと」にかぎってこでも付けていただいて、これを応援する、というふうにするのか、という感じでしょうか。あと具体的にはないですが、何か違和感がある、ということでは、お伝えしておきますので。

野坂副部長

行政の言葉として応援するというのが、適切なかどうかは、私も若干疑問はある。

吉田委員

一般的には支援やな。

桑原部長

もう一つ、おっしゃっておられたのは「環境を整えるなど生活が安定するようにします」という文章の文言に関してなんですが。

野坂副部長

若年層の生活が安定するということなんですか。文章の意味は。

事務局（吉村室長）

年齢にかかわらず、というような意味合いです。

野坂副部長

若年層に限らずすべての人が働くこと、働けるようにして生活安定させます、ということですか。

笈田委員

「若年層に限らず」はいらんの。

野坂副部長

もうちょっと何かもう少し具体的なことができないんですか。例えば、今でも失業率は低いんだよね。やはり失業率を引き続き全国1位を目指して、そんなこと言われてもいいんですか。

吉田委員

じゃあ、というのはおかしいけど、私の案として、上はこのままにして「安心して働く」となるとるわの。「安心して働く環境を整えていきます」というようにすれば、ちょっと指摘あったようなことはなくなるかなというふうに思う。結局は指導していくような形になるんでしょうけど。

野坂副部長

何か全国的な失業率の少ない都市を目指します、とか何とかもちょっと具体的なことを書けんのですかね。インパクトが弱い。そんなこと書くと責任が。環境を整え、引き続き失業率の少ない、全国的に少ない都市を目指します。

吉田委員

それは難しいの。

野坂副部長

そこまで入れたら、行政の方ではきついですね。

笈田委員

ガチガチになるから。

野坂副部長

ガチガチになりますか。

事務局（宮越労政課長）

よろしいですか、失業率のお話が出ましたので、お伺いしてみますと、失業率につきましては、市レベルの数字じゃないんですわ。やはり県レベルの数字ですので、市のその計画の中で失業率っていうのを言うのはつらいところがあるんです。ですから、そこを了承してください。

桑原部長

先ほどおっしゃったのは、安定して働く生活が安定するような環境を整えます。

吉田委員

「働く」、「安心して働く環境を整えていきます」。

桑原部長

生活が安定するというのはあるんじゃないかと思いました。

吉田委員

そうそうそう。ただ、具体的に何をやってというと、今副部長が言うようにそこら辺が難しい議論です。結構安心して働くっていう環境っていうのは、幅広いんですよ。雇用対策につながったり、雇用確保創出にもつながったりということもあるし。

桑原部長

じゃあ、「安心して働く環境を整えます」という文章としてはそうするとして、その具体的なものを、込めるかどうかというのは、どうした方がいいですか。加えると日本語的におかしくなるかもしれない。

野坂副部長

最初読んだときは、上の文章と下の文書に、どっちに入れていいか分からんですけど、情報提供や就労機会というのを増やすとともに、もう一つ施策としては、やっぱり介護とかいう、子育ての環境を整備することによって、安心して働けるようにしますといかないと、本来はいけない。安心が出てこんのではないのかな、という気はするんですけどね。

桑原部長

上の文章に入れた方がいいですかね。

野坂副部長

そこへ足さないと、安心というものは、無理かなと。上の2つだけでは、情報提供だけでは安心して働けるのかどうかとなったらね、文章として。就労機会を増やすというのは。就労機会を増やすことで安心して働けるという文章になっているから、ちょっとおかしいんじゃないかな、という気がしました。

事務局（宮越労政課長）

よろしいですか。今回につきましては、前回あげたときに子育て環境ということであつ

たのを、これは環境とすれば子育てだけじゃないだろう、という議論の中で、これは事務局の方で訂正した中で、具体的な事例ということで答えるということは除いて、安心して働けるという広い言葉で、包み込んだ形でご提示とさせていただいているわけです。

ただ、本日の今のお話の中で、子育てとあとそれ以外にも介護という形で、子育てだけじゃなくて、ほかにいくつか類する形で示すという形は当然、そういう方もあるとは思いますが、やはり安心して働けるというのは、前回の議論を受けた中で、一つ特出しするんじゃないで、大きな形だぞということで、一つひとつ例示するとまた長くなるということもあって、こうした踏み込んだ形になったということで、ご理解いただきたいと思います。

桑原部会長

一文した時におっしゃられたように、情報提供によって安心して働けるという。

野坂副部会長

意味に取られてしまうと、ちょっとおかしくなる、という意味なんです。具体的なものがないと安心という言葉に繋がらないのじゃないのですか、ということなんですけど。それとやっぱりある程度ないと、言ったことが何を意味しているか、というインパクトがちょっと弱いという感じがします。難しいことを言っている。

事務局（豊岡商工労働部次長）

子育てと介護を2つ並べて「など」としたらどうですか。

桑原部会長

いくつか例示してもらって、安心して働く環境を整えます、ということですね。

笈田委員

この上の行の「若年者層に限らず」というのは必要なんじゃないかな。

桑原部会長

前回も何か。

野坂副部会長

難しい問題でしょうけど、やはり逆に40代、50代の就労環境をどう整えるか、というのは大きなテーマでしょうね。

桑原部会長

「年齢を問わず」とかにすれば、何か「限らず」というと否定的に感じるので、「年齢を問わず就労機会を増やす」の方がいいんじゃないですか。

野坂副部会長

逆に何もなくてもいいとは思いますが、でも、もうちょっと何かシルバー層なんかにも、積極的に就労機会を提供するような施策というのは、これは市の行政ではないのかもしれないですね。

事務局（宮越労政課長）

就労支援とはまたちょっと違いますが、シルバー人材センターという形で、生きがいくくりといった視点での支援は行っているところなんですけれども、ここで「若年者層に限らず」という文言を入れたのは、今雇用状態が不安定な中で、30代、40代、若年層とは言えない年代の方も、お仕事を色々探しているという事実があるということで、「若

年層に限らず」という文言はあえて入れたんですけれども。やはり、私どもの目的は、年齢を問わずという言い方にするのは、それがずっと進んでいきますからね。であれば、そういった言い方もあるのかな、というふうに思います。

野坂副部長

これを具体的にやるのは簡単ではないと思います。どういう具合に情報を提供して地元企業にそういう方をマッチングさせるかっていうことが、市の行政なのかどうかもちっと私にはよく分からないことではあります。難しい。大変ですけど。

桑原部長

文章的にはそういうふうに修正をしていただく、ということで、他、何かありませんか。
⑮の方は、これで、一段置かせていただいてよろしいですか。いいですか。

野坂副部長

今日は早目に終わりましたと言ったのに、部会長の方が遅れてきたから。

桑原部長

ちょっとバスが混んでいました。失礼いたしました。⑯の方に移りたいと思いますが、こちらでは何か。内容的な文言でもよろしいんですが。

野坂副部長

私ばかり言っても、よろしいですか。文章的には、上手にまとめられたということで、また崩してしまうと難しくなるんですが、まだ福井の場合に、観光としての魅力を創造しなければならないところがあるんですね。まだちょっとこれから作っていかなければならない部分がないと、観光としてとても難しいと思うんですよ。そこのところをだから作っていくという部分は、ちょっと抜けているかなと。今後、観光の魅力をつくっていくというんですか、そこがちょっと抜けているような印象は持ちました。

桑原部長

今あるものだけではなくて、何か新しいもの。

野坂副部長

今あるものだけでは、観光都市を目指すのは、ちょっとインパクトが弱いという気もするんで、それであえていつているんですけどね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

確かに福井の場合は、大きな観光という地名が朝倉と越前海岸とあと駅中、駅前の多少、柴田神社とか養浩館ですので、全国的にも福井というのは観光都市という名称が冠につくわけでは決してないので、なかなかおっしゃるように観光としての魅力をその部分が足りないということは、確かにあるんですね。越前海岸あたりがもっともっとお客さんがみられるようなことになればいいなと思うんですが、なかなか、果たしてどういうことでお客さんがそこへね、ドライブですつと通り抜けていく。風光明媚というだけではなく、要所所で停まっていただけの仕掛けが必要ではないかなというふうには思いますけどね。

桑原部長

2つ目の2行目のところに、「より一層福井の魅力をみがき」という文章があるかと思うんですが、ここは何かそういうことを意図されたんじゃないかな、とは思いますが。今あるものを磨くというよりは、新たに発掘するという感じですか。

野坂副部長

こっちの方は市民が磨くみたいな感じなんだね。行政として何をするのか、というような感じ、文章には見えにくいんですけども。

事務局（豊岡商工労働部次長）

観光地をつくっていくのか、目玉となる観光地。

野坂副部長

従来の観光地という感覚ではなくて、ちょっとものづくりのときにも話をしましたとおり、例えば、健康診断にしてもらってもいいんですから。他に何か違った観点で見に来てもらえるように健康とか、そういう切り口でやる。そういったことを含めたものとするしかなかなか、観光地をイメージするような観光資源は難しい、という気はするんで、そういったことを考えていかないと難しいかなあという気がします。

だから、福井は歴史的なものはすごくあるんで、ここをどううまく整理して魅力を出させるか、というのは非常に大切なものだなとは思いますが。歴史的なものはある。

印象としてはまだまだそういうものを磨いていかないといけない、つくっていかないといけないというような、行政として支援していかないといけないとかね、行政として考えていかないといけないという部分がないと、ちょっと弱いかなと、施策として考えたときに整備していく、というのがいるのかな、という気はしたんですがね。ただ、文化と歴史になつてしまうと、その商工ではないので。難しいところがあるのかなと思うんですけど。

笈田委員

アドバルーンみたいなものはないでしょう。隣では100年後の重文、300年後の国宝とか言いながら、いろいろ作っているでしょう。福井でもそういった朝倉なんかはそういった形にしていこう、という部分がちょっと欠けているかなという感じはしますけどね。

桑原部長

一つ目の福井らしさというところに、もう少し「新たな観光資源の発掘」とかみみたいな文言を入れた方がいいと。

野坂副部長

そこまでいくと言われるとちょっと難しい。議論の過程でコンベンションの誘致とかはここでは関係ないですかね。

事務局（吉村室長）

あります。

野坂副部長

それがちょっと抜けているかなという気がしました。それから、国体もあまり関係ないと思うんですけど。決まるんですから。

事務局（吉村室長）

国体を利用してっていうのは、というのはあるかもしれないですね。

野坂副部長

国体に向けてとか。

事務局（吉村室長）

国体そのものは違う分野。

事務局（豊岡商工労働部次長）

今、おっしゃっていただいたコンベンション的なことと、福井の観光としての魅力の創造という言葉をもう少し強調するという部分で、「福井らしさで観光客を増やす」という三行に付け加えるということ、今こうこうします、というのはなかなか申し上げられませんが。このあたりは、少しそういうようにさせていただきます。

桑原部会長

はい。あとは何かありますか。大谷さんは何か。

大谷委員

言葉としてはとてもすばらしい言葉が羅列してあるんですけども、さっきおっしゃるようにこれからどのようにしていくとか、ハウツーのものになるとどのようになっていくのかな、という不安はありますけれども、文章としては今までのことはきちんと文章化はされているとは思いますが。

桑原部会長

じゃあ、これもこちらでとりあえずおいといて、⑩の政策の方に移りたいと思います。かなり、大手術というか大幅に変わったと思われるんですが、何か抜けているとかありますか。

野坂副部会長

まず、農林水産業を振興するということで、「多角化・高度化に向けた取り組みを支援します」となっているんですが、やはり儲かるところの収益増というのは、なかなか入れにくいんですかね。収入増とか。「経営の多角化、高収益化に向けた取り組みを支援します」というのは高度化になるんですかね。

事務局（吉村室長）

結果として、儲かることを支援するということを行政として言いにくい。

野坂副部会長

でも、魅力がなくて、お金が入らないと魅力がない。私は思うんだよね。

事務局（吉村室長）

だから、儲けの手助けをしているか、というのは、なかなか、結果としてそういう個人に向けて多角化とか高度化した農業をすることによって、それを応援すると。それに組み込んだ結果、高収益になる。

桑原部会長

前回は設けるためにやるのかとか。何か文化というか、継承していくという。

野坂副部会長

儲かるためにやる。誰も儲からないのにボランティアでやってられないでしょう。しないでしょう、そんなの。

事務局（吉村室長）

文化の部分が。

野坂副部会長

それに3つ目に飛んで、としては、もうちょっとやっぱり福井の産品をもっと売っていくということに関しても、他県に、地産地消とか、地元での食育とかということになっていきますけど、売っていくという、そういう視点が少しいるのではないかなと。そこがちょっと抜けているかなという感じがしたんですけどね。安全・安心な、ここに入れていいのかどうかはちょっと分からないですけどね。「安全・安心な地元農林水産物を活用し」、ちょっと難しいんですけどね。

事務局（土田農林水産部林業水産次長）

項目を3つに整理したという形で、その中で凝縮するような形になって、それに今は野坂委員さんがおっしゃるような販路拡大という部分は、先ほどもおっしゃっているようなやっぱり利益を見て、あるいはご飯が食べられるような農林水産業の経営であるというふうなところには結びついているんですが。

非常にそういう福井の農林水産業のおかれている位置づけ的なもの、あるいはこれは持続的にも第一産業としての農林水産業の置かれている位置づけは、非常になかなか販売物自体は値段が安いですし、生産とかは、そういうのは自然条件に左右されて、安定的な収穫ができないという部分もありますし、そこらへんでの取り組みをできるだけ、そこらへんで支援するような形で、なんとかご飯が食べられるような、あるいはそれによって、農林水産物の生産自体が何とか頑張って、そういう自給率的なものが向上していく、というところへ国の方もそういう政策に向いていますし、そこらへんをうち側もフォローするような形でやっていくという形で、こちらの方に表ささせていただいているんですけど、なかなか。

野坂副部会長

ちょっとよろしいですか。たまたま、今週の日曜日やったかな、隠岐の島、鳥取県やったか、島根県やったか、隠岐の島で。

事務局（土田農林水産部次長）

島根県。CAS（キャス）冷凍のやつですね。

野坂副部会長

はい、何とか冷凍ですよ。細胞組織を壊さないで冷凍の施設を造って、隠岐の島でとったものを東京で直販している。しかも隠岐の島に横浜出身とか東京出身とかそういう人に来てもらって、岩垣の養殖やらやっているケースが出たんで、やろうと思ったら隠岐の島でもできるのであれば、福井でも、もっとやれるんじゃないかという気はしますけどね。

事務局（土田農林水産部次長）

非常に、新しいそういう技術ですから、冷凍の。ある程度何ヵ月でも、そういう細胞のまま、そういう細胞組織を壊さずに、そのままだいたい取れたときの味が楽しめるという形で、非常に脚光を浴びているような。そういうあれは県の色々な水産ビジョンの中にも取り上げている。

ただ、それは、要するに生産の、第一次の生産の現場でそういう収穫の現場でやっぱり採り入れていくという形で、やっていくというふうな、そんなそういう形が有効な、そういうふうな理屈なんです。だから、そういう純ものは、一番生でそういう新鮮な形で消費者の皆様へ届けるのが一番いいという形でそういうふうな技術もでてきているんですけど、なかなか福井の生産量自体が、そんなにたくさんでないですし、そんな中で、そういうことをしてというのは、なかなか進んでいかないという事情もあるんだと思います。

す。

野坂副部長

たまたま隠岐の島のところでは、そういうことで、人がどんどん過疎化しますんで、牧場みたいにして土地もただで貸してあげて、牛の世話をしなさいとかね。そういう具合にして都会の若い人が来て、働いてそういうような支援をしていた、というのがたまたまテレビで出ましたから。ちょっと福井市は大きすぎてなかなかきめ細かくできんのかなという気もしますが、そういうことも、むしろそういうのは三国とか越前町がいいのかもしれない。

事務局（土田農林水産部次長）

産地の方であがってきたものを瞬間冷凍して、あるいは船で取れた段階でそうしてもらうという形で、そういう鮮度を保って、ある程度長期的にたくさんとれたときには長期的なことも聞きますから。

野坂副部長

というのを改めて出しました。

桑原部長

私も。

野坂副部長

さっき福井はなかなかという話が出たんで、隠岐の島でやっているから。

吉田委員

悲しいかな、行政のあれやの、弱点というか、県とそれぞれ市町村との違いもあるし。県はもう少し積極的に研究者なんかをおいてそういった技術開発なんかをしてやっていく。いかんせん、請負的な要素が多分にあるので。で、こういう表現しかしかたないんかな、というふうなことは私なりには理解するんですけども。色々と農業試験場なんかでいくと、バイオを使って、この間も出たかもしれんけど、産業を売り込んでいこうという動きは若干あるんですが、大々的にこれをしかけていくという、そういう仕掛け人というのは悲しいかな少ないという。

だから、そういった色々なノウハウを農業者が農林漁業者が自分で持ってきて、こういうものをやりたいんやけど、補助金くれや、という、そういうやり方での推進策が目立ってやっているのが現状かなと。

野坂副部長

あまり大きな都市だと、むしろ小さな都市の方がきめ細かくなるんですかね、そこの育て方とかね。そこのところを議論していただいて、将来的には政策として考えていただかないとまずいんかなと思います。これしかないからこれを育てようというところと広すぎてなかなか特定できない、という部分かも、そこらへんもありますからね。隠岐の島に移り住んでいく人がいるんですから。魅力さえ出せば来る可能性はあるし、いないと出て行ってしまふ。

この前なんか、福井市でいろんな話をして観光やった時に、何かいろんな議論をしていた時に、越前海岸はあらゆるイカが、全部の種類が取れる、イカの種類は。それをいけすにしてちゃんとやる。それくらいにして発信するとか、イカやったら越前海岸の福井とか、ほういうような発信をしてもらわないと、やっぱりいつまでたっても福井は何か、という

ような、そりゃ、カニにしたらそこら中とれるんでしょうけどね。何かそういうような具体的な施策を考えていただくといいんじゃないかなとこの間に。

事務局（豊岡商工労働部次長）

今、おしゃっているイカについては、今、地元と現実には話を進めている途中なんです。いきなりいけすをつくって、イカはいけすの中で生きる期間が非常に短いんですね。2, 3日で死んでしまう、長くても1週間もつかもたないかです。イカを使った名物料理とかイカの祭典、お祭りとか、そういうものをいっぺんやってみて、イカが福井の特徴ある水産物だよということを少しPRしていこう、という動きはさせていただいております。これは観光の方です。ただ、大々的にイカのいけすを大きなものを作って、そのいけすでもって各旅館とか民宿に配送していこうという、そこまでのものにまだやっていくというのは、なかなか一長一短で難しいかもわかりません。

吉田委員

今、福井なんかでも福井市がやっているのに、協力支援しているんですけど、漁港。

事務局（豊岡商工労働部次長）

越廼でしょう。

吉田委員

越廼、そうそう、いけすを作って、ヒラメだとかアワビだとか。アワビも普通のアワビじゃなくて一口アワビといったかな、何かこれぐらいの大きさとか。そういうものを研究開発してそれを売り込んでいこうと。あんまり目立たないのであるけれど、そういうなのは、ちょいちょいやっているという。

野坂副部長

特産品が。

吉田委員

それが今、特産品としてうまくなればね。

野坂副部長

もっと支援するとか、なればね

事務局（豊岡商工労働部次長）

アワビの養殖なんかも、今、農林業の方で一部やっているように聞きますけど、それが越廼のあそこでやっているということやね。

事務局（土田農林水産部林業水産次長）

越前ガニの存在が非常に大きいのと、最近ではやっぱり、水揚げされてくる魚もやっぱり温暖化か、海水温度の上昇か分かりませんが、とれたり、まるつきり違う魚がとれてみたり、という形で、非常に福井の魚として越前ガニの続くものに何を、ある程度数が取れなければいけませんし、量もとれなければあきませんし。

そんな中で何をという、イカなどはずっと北上していきますから、こちらの船を北海道まで追っかけていく形になるんですけど。そこらへんの難しさの部分もございますから。海の状況が変わってきているみたいですし、能登では蓄養で黒マグロを、実際幼魚とってきて蓄養しているという形もなかなかうまく成功するまでにいきませんし、それがましてや採算ベースに乗るような形で、収益が出るような形ではなかなか出ないみたいですし。

ただ、将来的にはグローバルな中では水産資源もおそらく色々な漁獲制限やらが出てきますし、育てるといふ部分もこれからは非常に大事なもんだというふうに思っていますし、できるだけうちらも先ほども申し上げたようなアワビとかヒラメ、そういう養殖的な、そういう形のものもつくってますけど。

事務局（豊岡商工労働部次長）

イカは何とか観光の方で少し。イカについては。

吉田委員

難しいの、そこらへんは。個人には、僕は、これはうまくまとめたなというふうに思う。だから、その個々の課題ね。今、1例挙げてなんですが、例えば、そば、赤カブにしたって、この間もちょっと出たかしらんし、コシヒカリにしたってもっと発祥の地やし、もっとアピールしながら、コシヒカリは100%推進します、なんてそこまではちょっとうたわれんと思うんで、漠然とそういうふうな形の中で、精一杯企業努力しているところに対して、精一杯支援していくという。それがしいて福井のブランドとしてなっていってほしいというような願いのもとで、こういった支援策であれしていけばいいのかな、と思いますけどね。

野坂副部会長

あと、市町村が合併しましたんで、美山、清水、越廼、このあたりの特産品を育ててあげるといふのもやっぱり考えていかなければならないという気はいたしますよね。

桑原部会長

特に大きな修正というのはないということで。

野坂副部会長

だから、特産品を育てるといふ。

笈田委員

ちょっと、行政の方に要望なんですけども、実は、私どもいつも組合員を対象にした祭り、福井市農協なんですけど、組合員を対象にした祭りをやっているんですけども、地場の市の市場もあるのに、どうかなと思うんですが、産直という意味から組合員と市民を対象にした地場野菜の直取引というのをやりたいなということで、計画をしているんですけども、市のどうしても駐車場が問題になるんですね。たくさんの方においでいただくということになりますと。それとただ、市の競輪場の駐車場なんかは、そういったときにお貸しいただけるのかどうかというのをちょっとお伺いしたいんですが。話が違うんですが。

事務局（豊岡商工労働部次長）

競輪場は商工労働部なんですけど、そういったイベント、福井祭り、春祭りなんかでね、たくさん河原の方へ桜を見に来られる方用に競輪場の駐車場は一部、遠い部分については開放することなんですけれども、競輪場の施設に近いところはなかなか競輪の場外やら本所開催があつたりするとなかなか難しいんですけども、そういう部分については空いているところ、たくさんありますので、それは、競輪場との交渉にはなるんだとは思いますが、一部、そういった開放している実態、実績がありますので、また、お話いただければと思います。

笈田委員

なら、開催日以外とかそういったこと。

事務局（豊岡商工労働部次長）

そうですね。

事務局（吉村室長）

シャトルバスか何かで。

笈田委員

ええ、そういう感じ。

事務局（吉村室長）

開催日が少なそうで、結構場外はやっているんです。

笈田委員

場外はよくやっているらしんで。分かりました。それはまたそういうことで。

桑原部会長

では、前段階のはずなのに、こんなに時間が過ぎてしまいまして、一応ではメインの方に移りたいと思います。本日は、この基本目標A4の小さい紙がありますけれども、こちらの方のシーンですということになりますけれども。この部会全体としての基本目標として「みんながいきいきと働く都市」ということでまとめておりますが。

これ、下の文章も使われるんですかね。その下側の文章、これも明記されるんですか。

事務局（吉村室長）

ああ、そうですね。

ここの一番下の段落、「さらに」以下のところなんですけども、⑩の施策のところでは農林水産業を振興するということで、農林水産業全体という形でちょっとまとめさせていただいたんですけども、ここ、農業経営というか、ちょっと農業ばかりが残ったようなところがありますので、ここのところは、例えば農業経営というところは、農林水産業経営、ちょっとそんな形でこちらは修正させていただきたいと思います。

それから、基本目標の一番下のところですが、「快適で魅力あふれる」と元のとおりになっちゃって、「快適で」というのがちょっと元のとおり残っていましたので。

野坂副部会長

これ、消してありますよ。

事務局（吉村室長）

消しています。

生活環境のところは、逆に「快適」というのを残した方が、農林水産業自体が快適ではないというところで、魅力ある農林水産業と書いたんですけども、生活環境はちょっと「快適な」というのを逆に、これ、ちょっと消したんですけど、残したいと。

吉田委員

どこ。

桑原部会長

一番最初。

事務局（豊岡商工労働部次長）

下から2行目です。

吉田委員

生活環境を築き。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「農山漁村の快適な生活環境を築き」という形で。

野坂副部長

1段落からずっと見ていった方がいいんじゃないんですか、残りもずっと見ると。

「精を出して仕事ができる」の精を出してってあまり、使いますかね。

大谷委員

「笑顔が輝き続ける」なんて難しいんじゃないの。

野坂副部長

これは、だけど全体のテーマなんです。

大谷委員

これは崩せないんですね。前に続けなきゃいけないんですね。

野坂副部長

だと思うんですけども。

精を出して仕事ができる、精を出してというのはちょっと、若干引っ掛かりますけども。

笈田委員

懐かしい言葉ですね。田んぼ行くときの言葉。

吉田委員

田んぼ行くときの言葉や。

事務局（吉村室長）

もうちょっと、スマートなあれではない。

吉田委員

精出してやれと、よく言われた。

桑原部長

でも、先ほどの⑮の政策の中でも、安心して働けるとかっていうキーワードも出てきたんで、そういう言葉に置き換えてもいいのかなとは思いますがね。

野坂副部長

これは何で「精を出して仕事ができる」という表現を入れたんやろね。

桑原部長

生き生きと働けると書いてある。

野坂副部長

ある程度、終盤の年齢になっても働けるという意味でそういう言葉になったんですかね、精を出して。

桑原部会長

何か意図はありますか。裏に込められた思いとかっていうのは。

事務局（吉村室長）

頑張って仕事を、それだけです。特段、思い入れはあまりありません。今おっしゃったように「安心して」の方が、笑顔で暮らせるとか、そういったものにはつながるのかもしれない。「活気に満ち」というところで頑張るって仕事というようなイメージで、ちょっと精を出すという。

野坂副部会長

表現の問題ですから、そこまでこだわりはしていませんけど。

桑原部会長

気にはなりましたが。このままでいきますか。何か、この代替案。

野坂副部会長

だから、生き生き働けることが重要なんだと。そのためには活気に満ちていないとだめだし、仕事も一生懸命精を出して働けるようにせなあかん、笑顔で暮らせなあかん、こういうことが重要ですよということなんだろうね。

桑原部会長

ですから、「精を出して仕事ができ」の意味合いは、たぶん雇用環境がしっかり整っているということを言いたいんじゃないかなと思われるので。

野坂副部会長

「生きがいを持って仕事ができ」。

桑原部会長

いかがでしょうか。

野坂副部会長

何かそれに近い表現やったら、そういう形かな。「安心して生きられるよう、生きがいを持って」とか。

桑原部会長

ほかは何かないですか、代替案は。

じゃあ、何か最後に、ここはちょっと変えていただくとして、次は2段落目ですが。

何かちょっと唐突ですよ。つなぎの言葉とかが特になく、「大切です」というと。上とつながるためには、何か。

野坂副部会長

「また、さらに」が下にあるので、次のつなぎの何か適切なやつはあるんですか、もしたら。

桑原部会長

だから「そのためには、地域の何とかが大切です」とかっていうふうにした方が読みやすいかなと。

野坂副部会長

「そのためには地域の産業の競争力を向上させ、雇用と就業機会を創出することが大切です」と。で、「農商工連携の推進や地域の商店街。」

榊原委員

こっちの大きい方にある「企業連携や産学連携」はここに入れないんですか。こっちの細かい方にはあるんですけど、何でここが農商工だけなのかなと思って。

桑原部会長

農商工だけでなく企業連携、産学連携。

榊原委員

大きい基本目標なんで。

桑原部会長

何か意図はあるんでしょうか。

事務局（吉村室長）

別に意図ってないんです。まあちょっと。

桑原部会長

文章が長くなるから。

事務局（吉村室長）

それだけです。ちょっと代表的なところをピックアップしながらまとめているような形ですので、必要な部分については、また付け加えていただければと思います。

野坂副部会長

「適切な支援」という行政言葉なんですけど、あまり好きではない。行政言葉、「適切にします」というので。きめ細かいというのはまずいんですか。そこまでできない。

事務局（吉村室長）

それでもきめ細かいこともやっているとは思いますが。きめ細かいって入れてもいいかな。いいです。

野坂副部会長

適切になっていうと、行政言葉になるんで。

桑原部会長

ここの「農商工連携」で止めるんじゃなく、「など」を入れるとか、もうちょっとこう包含させるという意味も含めるのがいいのかなというのと、あとこの文章の切り方なんですけど、「や」が2回出てくるんで、「農商工連携などを推進し」とかにすると、いったん切ってもらって「地域の商店街や中小企業に対するきめ細かい支援を行い」とか。「対し、」になっているので、「対するきめ細かい支援を行い」。

野坂副部会長

「など」を入れるわけですね。

桑原部会長

また、あと「魅力ある職場環境づくり」という言葉を増やされたので、後ろがちよっと何か読みにくくなっているところがあると思いますので、「魅力ある職場環境づくりに取

り組む」。

大谷委員

「積極的に」。

桑原部会長

「積極的に」があと何か読みにくいですよ。『職場環境づくりに取り組む』でいいんじゃないですか。

事務局（吉村室長）

「に」に「に」でちょっと読みにくい。

桑原部会長

はい。

野坂副部会長

何を指しているのか、私もよう分からないのだけれど、「魅力ある職場環境づくり」というのは。

桑原部会長

それと、やっぱりさっきの「働きやすい」の方がより具体的というか。働きやすい職場環境づくり。

どうでしょう、何か「魅力ある」に置き換えられそうな言葉というと。

野坂副部会長

雇用環境。

桑原部会長

「魅力ある雇用環境」ですか。職場というと働いている人だけみたいになってしまいうんです。雇用対策。

野坂副部会長

雇用対策も入っているね。

主体は、職場環境をつくるのは企業なんでしょう。ここの「企業に積極的に取り組む」というのはちょっと、具体的にやれる主体でないところが積極的に取り組むという感じを受けるから、ちょっと違和感を感じるのは感じるんです。だから、職場環境をつくろうとする企業を積極的に支援するとかね、そういう具合に誘導するとかというのが行政の役割だと思うんですけど、ちょっとそこら辺かな。

桑原部会長

「魅力ある職場環境づくりを支援し」みたいな。

野坂副部会長

人材の育成も、ここも人材の育成だけではちょっと弱いと思うんですけど、私も文章難し過ぎて、じゃあ私に書けと言われてたら書けない。言いたい意味は分かるんですけども。

桑原部会長

じゃ、いったんここは、「雇用対策や人材育成、魅力ある職場環境づくりを支援し、活気あふれる都市にします」というふうにしてはどうでしょうか。

野坂副部長

いえいえ、文章を作らないと意見というんで、作ったんですけど。

主体として雇用対策は市でやれるんですかね、市の役割として。

事務局（吉村室長）

直接はあまり。ハローワークとか、そういったところと協力しながらやっていくような立場なんですよ。

野坂副部長

普通はハローワークやらあっち、商工会議所もやっていますけどね。商工会議所を支援するのはできるわね。

事務局（吉村室長）

ハローワークとは恐らく一緒になってという、若干下請的な仕事もありますけれども。

吉田委員

大きく考えれば、市の職員課がいるので、そこら辺でも雇用対策という部分も当然この中では、率先して考えていかないといけない部分があるやろうし。

桑原部長

じゃあ、この「支援し」の方がいいんじゃないかということによろしいでしょうか。

野坂副部長

お任せします。

桑原部長

次の第3段落目なんですけど、これは何か「市民が福井の魅力を知る」というのが完全に抜け落ちていますが、何かこの「もてなしの意識を」というのがごっそりなくなってしまったということは。「また、市民が福井の魅力を感じられる観光地づくりも大切です」。

野坂副部長

どうしても急転直下型。「また、福井の魅力を感じられる観光地づくり」。

吉田委員

この「もてなし」は何で消したの。

事務局（豊岡商工労働部次長）

要するに、そのちょっと今申し上げられ……

桑原部長

これ、せっかく「福井の特有の風土や風習を楽しみ」とここには載っているんですけど、ここは前のようにあった方がかえって。

事務局（豊岡商工労働部次長）

あってもいいように思いますね。ここのフレーズは、市民と観光客がこういう風土や風習を楽しんだり、散策を楽しむ人々であふれる、ここの「人々」は市民であって観光客であるという、そういった意味ではあったんですね。

桑原部長

あまりそうはとれないと思うので、明確に出された方が、せつかく。

野坂副部長

「福井特有の風土や風習を楽しんだり、散策を楽しむ市民や観光客であふれる市にします」というんですから、具体的に。そういうことですね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

この「人々」をそれに置き換えて、「もてなしの意識を醸成し」はもう復活させるということでもいいですか。

桑原部長

たぶんこれ、何か議論が前あったのは、主語が全部違うという話じゃないですか。広域的な観光地づくりをやるのは市であって、もてなしの意識を醸成するのは市民であって、楽しむ人は観光客でっていう。それが何か分かりにくいみたいな話で、ちょっと忘れましたが、何かありましたよね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

市民がもてなしの意識を持つということも、行政がそういう体制を組むといいますか、サポートするということになりますから、やはり行政施策としてこういうふうにしていきますというところにすべてが係るんだろうと思いますけどもね。

何かここにつなぎ言葉がないから、取り組み、醸成し、楽しんだり、何かぱたん、ぱたん、ぱたんとなる感じがして、もう少しどこかで1つ言葉を入れた方がいいかも分かりません。

桑原部長

じゃあ「市民のもてなしの意識を醸成し」とか。

野坂副部長

「市民の」というのは入れた方がいい気がしますけどね、その言葉は。「醸成し」で終わった方がいいのか、「醸成することにより」ってした方がいいのかは、ちょっと私もどっちがいいのかなと思ったんですけど。

事務局（豊岡商工労働部次長）

じゃ、「もてなしの意識を醸成する」の前に「市民のもてなしの意識」ということになってくると。「市民の」と入れますかね。それならはっきり分かります。その「人々」はもう「人々」で、そうすると置いとくちゅうことになります。

桑原部長

はい。ですが、その後、たぶん「楽しんだり」の後に「何とかだり」がないから気持ちが悪い文章なんだと思います。「福井特有の風土や風習を楽しみ、散策を」。風土や風習。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「楽しんだり」を取って「楽しみ」やね。

吉田委員

それじゃまた頭が合わない。

野坂副部長

「散策を楽しん……」が具体的すぎるのかもしれないね。

榊原委員

「散策」要らないんじゃないですか。

桑原部会長

歩いてほしいという意味やから。

野坂副部会長

観光し、散策するのが市民も環境を知っていることになると思う。

桑原部会長

何かシンプルに「風土や風習を楽しむ人々であふれる都市にします」の方が見やすい気がするんです。

事務局（吉村室長）

それは意味が足りん。少し意味が足りないものがあるので難しいのであらうと思いますけどね。市民も何かこういったところに訪れてほしいということやら、自分らも楽しんでほしいということを入れたいということで、ちょっと、ここは難しい。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「福井特有の風土や風習を楽しむ人々であふれる都市にします」。

野坂副部会長

それはちょっとおかしいね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

これはおかしいですか。

吉田委員

この「楽しむ」というのは「楽しむ」しかないのやろうか。風土や風習を楽しむちゅう表現しかないの。何か違う表現はないのか。

野坂副部会長

ちょっと、これね、2つ楽しむっていうのがちょっと何か。

桑原部会長

施策の方では何か、文化に触れるとかというのもありますけど。こちらに「生活や文化に触れる」って書いてあるんです。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「風土や風習」を「歴史や文化」に置き換えた方が分かりいいですかね。

野坂副部会長

見るものでなくて、生活とか、そういったことも観光になる可能性はあるんですよ、生活スタイルとかいうのもね。

吉田委員

要するに、滞在型のそういう意味合いもあるわけやろ、これ、風土や風習という表現は。

事務局（豊岡商工労働部次長）

その辺、観光にかかわることができますので、従来型の大型観光地だけではなくてです

ね。

吉田委員

学ぶ。学ぶというたらおかしいのかな。この楽しむという、もう少し違う表現を前で取れば、あとそのまま。「触れ」は。「福井特有の風土や風習に触れ」。

事務局（豊岡商工労働部次長）

触れたり、散策を楽しむ。

桑原部会長

「触れながら」の方がいいんじゃないですかね。「触れながら散策を楽しむ」。

野坂副部会長

触れながら散策に楽しむ人って。触れながら散策ではないでしょう。その表現はちょっと。

桑原部会長

こうやってずっと切れると、3つですというつながりが何かなくなるので、続けた方がいい、もしくは散策が要らないのかのどっちかじゃないですかね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「風土や風習に触れ、楽しむ人々」というのはどうですかね。「風土や風習に触れ、散策を楽しむ人々であふれる都市にします」。楽しむを2つも並べるのもちょっと違和感ありますか。

野坂副部会長

それは気になりますね。楽しむって言葉が2つあるのは。

桑原部会長

「歴史と文化に触れる」というのはいいと思うんですけどね。

事務局（吉村室長）

風土や風習、文化や歴史的遺産。

野坂副部会長

それも考えました。「風土や風習」で点して「歴史や文化」も考えたんですけども、これも回りくどいの。「福井特有の生活・文化」。

桑原部会長

生活の方がいいんじゃないですか。

野坂副部会長

福井特有の生活・文化に触れ、歴史や文化を楽しむと。それもちょっとおかしい。

事務局（吉村室長）

欲張ると何やかんや、やっぱ少し。

吉田委員

散策を先に、さっきの何か歴史と文化ってまた入れたくなるんやってのう、これ。「また、風土や風習に触れ、散策を楽しむ」って何やんとかう、ちょっとおかしいあれやから。だから、そこにさっき誰かが言ったように、何か歴史と文化って言ったのか。すると、こ

の散策が生きてくる。

事務局（吉村室長）

「風土や風習に触れ、歴史や文化を楽しみながら散策する」。

事務局（豊岡商工労働部次長）

歴史や文化を散策するのはおかしい。

吉田委員

風土のこれは入れなあかんで。さっき言った滞在型のあれするんやったら。表現はちょっと生活や文化と変えてもいいかもしれんけど。

野坂副部長

今おっしゃるように、生活や文化の方が

桑原部長

こっちとの整合性が取れますよね。

野坂副部長

うん、取りやすい感じがするんで、生活でライフスタイルとか、いろんな風土、風習ってことになるんやし、文化っていう。生活で文化。

桑原部長

福井特有の生活・文化。

野坂副部長

生活や文化に触れて何々を楽しむ人々。散策と楽しむ、それに触れて散策を楽しむというのは、変な文章になる。

吉田委員

「生活や文化、歴史など、散策を楽しむ人々であふれる」。

野坂副部長

歴史が入ると散策があってもそこはおかしくないですね。

吉田委員

「など」、「生活や文化、歴史など、散策を楽しむ人」。

野坂副部長

「などにふれ」、「など」、何かせんと「など、散策を楽しむ」ではちょっと何かおかしいですよ。

吉田委員

「など」ではあかんのか。

野坂副部長

「など、散策を」というのでは文章にならんと思います。「などに触れて」。

吉田委員

「などに触れて」。

野坂副部長

散策を楽しむって、散策という言葉がものすごく難しいんだね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「生活・文化や歴史など」、その後に「散策を楽しむ」という言葉ではつながりませんか。

野坂副部長

つながらんとします。

事務局（豊岡商工労働部次長）

「生活・文化や歴史などに触れ、散策を楽しむ人々」。

野坂副部長

「触れ」ではあかんですよ。「触れながら散策」になるんですよ。散策をどうしても入れるんやったら。

桑原部長

じゃあ「福井特有の生活・文化や歴史に触れながら」ですね。「触れながら散策を楽しむ人々」。

野坂副部長

ちょっと前に戻って申し訳ないんですが、「もてなしの意識を醸成して」っていうのを復活させるんなら文章の最初に持って行って、「市民のもてなしの意識を醸成し、周辺地域と連携した広域的な観光地づくりの取り組み」でいった方がいいかなという気がしました。「市民のもてなしの意識を醸成し、周辺地域と連携した広域的な観光地づくりの取り組み」という。

桑原部長

はい。

野坂副部長

「市民のもてなしの意識を醸成し、周辺地域と連携した広域的な観光地づくりの取り組み」という。

桑原部長

最終段落にあってよろしいでしょうか。「さらに」という部分ですが。これ、農業者になっていますよね。

事務局（土田農林水産部次長）

農林漁業者によるという。

桑原部長

直るんですか。

事務局（土田農林水産部次長）

「農林漁業経営の推進に加えて」という形でお願いいたします。

桑原部長

ここでは食育は訴えないんですか。

事務局（土田農林水産部次長）

「食自体の重要さを啓発する」という項に食育の。

桑原部会長

何か前回、食育という言葉を取り入れることに固執しておられたんで。入れないんですね。

よろしいでしょうか。何かございますか。

野坂副部会長

ちょっと、あえて言わせていただければ、「意欲ある多様な農林漁業者による農林漁業経営の推進に加えて」という、ここがちょっとしつこいというか。それから、推進という言葉が、ちょっと農林漁業者の推進っていう感じだとちょっと文章的に若干違和感を感じます。

吉田委員

経営じゃねえか。農林漁業経営の推進じゃねえか。ではないんか。

事務局（土田農林水産部次長）

経営の推進です。

吉田委員

経営の推進やな。

野坂副部会長

だから、農林水産業の経営の。

吉田委員

「農林水産業経営の推進に加えて」って。

野坂副部会長

農林水産業者による推進。

笈田委員

そうです、2回同じ事を言っている。

桑原部会長

それはそうですね。

吉田委員

そうやわの、抜けていくものの。

桑原部会長

何かちょっとだけ気になったんです。

野坂副部会長

経営の推進というのがもう一つ、若干違和感を感じます。別におかしいとは思わんけど。というか、経営の推進って、経営の推進というのは、本来は主体者が推進するんで。

桑原部会長

支援とかの方がいいですか。

野坂副部会長

支援というとちょっと何となくやる気のある人だけを支援するのcaというイメージに聞こえるみたいな感じがするし、ちょっと難しいと思います。あえて言ってるだけで、ごめんなさいね。

吉田委員

経営安定の確保というのはねえんか。「意欲ある多様な農業者の経営安定に加え、安全で安心な食材の」。反応ねえな。

野坂副部長

経営の安定への支援やんね。安定だけではなくて。

事務局（土田農林水産部次長）

何かそういう行政としてやることには、経営安定はみんなそれぞれの農林漁業者が試みることですから。

吉田委員

「安定の支援に加え」か。安定の支援。経営基盤とも言わんのやろ。経営基盤の確立っても言わんのやろ。

桑原部長

なかってもよければ。

事務局（土田農林水産部次長）

安定的な経営の支援。「多様な農林漁業者の安定的な経営の支援」。

吉田委員

農林漁業が前に来て、また後ろ来るで言うたで、そののところを。

事務局（土田農林水産部次長）

いやいや、ここの「農林漁業」というのを取って、「意欲ある多様な農林漁業者の安定的な経営の支援に加えて、安全で安心」というふうな書き方はどうでしょう。

吉田委員

その前に、潤いと安らぎうんぬんのところに、「農林水産業を次代につなげる」とあるやろ。ここで農林水産業が出てるんでしょ。この後もこの表現を取ると2つ出てくるが。だから、そこら辺の表現を変えての今の経営安定的なというのか、経営推進に向けた何か表現をここでとってあげた方がいいんじゃないかという。

事務局（吉村室長）

農林水産業って言葉が何回も出てくるから。

野坂副部長

それもちっと違和感は感じますね。

桑原部長

ここはかなり出てきますね。

野坂副部長

みんなまとめたようなところがあつて。

今おっしゃられたのは意欲。

桑原部会長

「ある多様な農林漁業者の安定的な経営支援に加えて」という。

野坂副部会長

「安定的な経営支援に加えて、安全」。だから、そうすると1つ減りますよね。

桑原部会長

それだったら文章としてはちょっとシンプルになる。

野坂副部会長

多様な意欲ある。

桑原部会長

ということで、最後に、じゃあ一応まとめておきますと、『『ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける生活安心都市 ふくい』を実現するためには、活気に満ち、生きがいを持って仕事ができ、笑顔で暮らせること、すなわちみんなが生き生きと働けることが重要です。そのためには、地域の産業の競争力を向上させ、雇用と就業機会を創出することが大切です。農商工連携などを推進し、地域の商店街や中小企業に対するきめ細かい支援を行い、雇用対策や人材育成、魅力ある職場環境づくりを支援し、活気あふれる都市にします。また、福井の魅力を感じられる観光地づくりも大切です。市民のもてなしの意識を醸成し、周辺地域と連携した広域的な観光地づくりにも取り組み、福井特有の生活・文化や歴史に触れながら散策を楽しむ人々であふれる都市にします。さらに、潤いと安らぎ、豊かな食をもたらす農林水産業を次代につなげることも大切です。意欲ある多様な農林漁業者の安定的な経営支援に加えて、安全で安心な食材の安定供給や食自体の大切さを啓発するとともに、農山漁村の快適で魅力あふれる生活環境を築き、愛着と誇りの持てる都市にします。』ということで、一応こういうことにまとめました。

ちょっと長い時間になりましたが。

吉田委員

さっき、2段目やの。「農商工連携などを推進し」とおっしゃったでしょう。これ、さっきもちょっと指摘あったと思うんやけど、「企業連携や」というふうに入れんと、これ、農商工連携だと、ちょっと農業関係だけかいなというふうな感じに受け取られないかなと思うと。

野坂副部会長

代表が3つあったんですね。

桑原部会長

はい。企業連携と産学連携と。

野坂副部会長

連携と農商工連携。この中に3つ入れられとったんです。

吉田委員

そうでしょう。「企業連携や農商工連携などの推進や」と、こういう。今1つ。

野坂副部会長

1つだけ加えると。

吉田委員

入れないと、これ、農商工だけやと、農業関係だけの様な感じにとらえられるんですが、そんなことないですか。農業も産業といったら産業やろうけどの。

野坂副部長

3つ入れるよりは。そやけど農商工連携などといっても、他がちょっとイメージがわかんかもしれん。企業連携か産学連携、農商工連携。

吉田委員

どちらかを選んでの。2つにした方が、それで「など」にしておいた方が。

桑原部長

はい。どちらを入れるんでしょうか。企業連携の方を入れるということでどうですか。

吉田委員

一般的には企業連携。

桑原部長

ということで、なぜか前段階でかなり時間がたってしまいましたので、本日の審議はこれで終わりたいと思いますが、事務局の方、何か話すことは。

4. 事務局からの連絡事項

司 会

長いご審議お疲れさまでございました。

それでは、事務局の方から次回の日程について事務連絡を申し上げます。

次回、第4回の専門部会につきましては、8月24日火曜日でございますが、午前10時から12時。

吉田委員

私、昼からになってなんだけ。全協がある日でないんけ。

司 会

すみません。委員さん全部の都合がちょっと合わなかったの、部会長、副部長さんを中心にちょっと。

野坂副部長

ごめんなさい。私、24日、ファクスしてませんでした。27日まで海外なんですって、23から。27はその足で帰ってくるので、だけど27は来客が来るんであかんし。

桑原部長

27は、海外出張があるんです。

司 会

部会長、副部長さんのご都合が合わないそうです。一致しないそうなんです。

野坂副部長

27日から海外という、もうえんのや。

司 会

何かこの日が一番委員さんのご都合が合う日が多いそうです。よろしいでしょうか。

野坂副部長

お願いします。

吉田委員

24日10時から。さいなら。6人いるんか。

司 会

24日の午前が一番委員さんが集まる数が多いということで、この日に。よろしゅうございますか。

吉田委員

全協やと、皆さんはいいんか。

司 会

なら、そういうことで申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

なお、部長さんと副部長さんにおきましては、来月第2週目に先ほどお話出ました調整会議を開きたいと思いますので、またその日程につきましては、決まり次第ご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局の方からは以上でございます。

吉田委員

会場は市役所内。

司 会

はい。

吉田委員

もし、終わったら。早く終わったら顔を出します。

司 会

よろしくお願いいたします。

5. 閉会

桑原部長

お疲れさまでした。

(以 上)